



代表取締役
西垣和俊さん

消費者へ直接販売 確かな技術力で 求められる靴下を

靴下の提案・開発型メーカーの西垣靴下株式会社(大和高田市大谷・西垣和俊代表取締役)は、消費者に直接販売を行うオリジナルブランド「エコノレッグ」を展開している。また直接販売の利点を生かし、消費者からの声を取り入れ「今、求められている」商品の開発・販売も手掛けている。スポーツ用靴下をさらに特化したものへ昇華する新ブランドにも挑戦する西垣社長に、今後の展望や保有する特許などについて聞いた。

Made
in
奈良

大和高田市 西垣靴下株式会社

同社は昭和61(1986)年に設立。同業他社と違うことをしていこうとしながらも、販売先は問屋やアパレルなど主にOEM生産を行っていた。順調に売り上げを伸ばしていたが、輸入品が増加。「現在では日本で販売されている靴下の90%近くが輸入品になっています。一見したら違いが分からないものでしたので、同じものなら安い方がいい」となってしまうため、差別化が必要になりました」と西垣社長は言う。

自社ブランドを20年ほど前に立ち上げたが販売先は同じだったため、商品企画を行っても引き取ってもらえないことが多かった。「靴下の販売場所は量販店か百貨店です。量販店ですとよい安い商品、百貨店ですと有名ブランドの取り扱いになります。そのため、自社ブランドを作っても非常に厳しい状況でした」と当時を振り返る。

そうした状況を打破するために西垣社長が考えたのが「消費者に直接売る」ということ。また他にはない靴下として「自然と体にやさしい」をコンセプトにしたエコノレッグの販売会社として株式会社エコノレッグを設立した。

「ブランド自体は以前からありましたが、消費者へ直接販売を開始したのが8年ほど前からです。カタログ通販やネットなどで商品を販売し続け、現在5万人の会員がいます」と西垣社



クロスに埋め込まれたテーピング編み

長は笑みを浮かべる。西垣靴下は、靴下の製造技術として特許5件、意匠18件、商標28件を保有。また、最新機械を多数導入して仕事やスポーツに使う「パフォーマンスを上げる靴下」、外反母趾や扁平足に対して使う「予防・対策靴下」と用途ごとに合ったさまざまな靴下の製造・開発を行っている。

「代表的なものとしては『疲れしらずの靴下』になります。仕事で使い続けられる丈夫で履き心地の良い靴下を目指し開発しました。土踏まずに施した『新型クッション編み』が特許になります。通常のクッションはパイル編みという糸をたるませて輪っか状にしたものになりますが、それだと生地が弱くなります。糸をたるませるのではなく生地に挿入することでパイル編みより約10倍強いもの

より機能的に、より特化した靴下を 新ブランド「ソックスラボ」を展開



スポーツごとに特化した靴下ブランド「ソックスラボ」を展開

さまざまな技術を使い靴下を作っています」と西垣社長は説明する。続けて「高機能靴下というのは『何にでも使えるもの』ということではなく、『何かをする際に機能的に使えるもの』と考えています。また特別な靴下というのは、実際に使用する消費者が『こんな靴下が欲しい』といった思いからできるものです。うちではそういった点でも、その声を直接聞くことができることから、それを取り入れ、顧客の要望に応え、それが数々の発明受賞につながっています」と話す。

同社は今後、これらの技術を使い、ラグビーやサッカー、バスケットボールなどに使用する、さらに特化した靴下を作る考え。その第一弾として京都大学と共同してラグビーソックスを作成した。

「この時のものは京都大学さん向けに作成したもので、一般的に使える靴下の開発はこれからになります。スポーツ用というものはすでにエコノレッグにあります。今後作るものはそういったものではなく、それぞれのスポーツに対してパフォーマンスをもっと上げる靴下になるもので、今年立ち上げた『ソックスラボ』という新ブランドで展開します」と西垣社長は話し、トップアマチュアからプロ用の靴下として製造販売する。



- 設立=昭和61(1986)年
- 代表取締役=西垣和俊
- 従業員数=45人
- 資本金=1000万円
- 事業内容=靴下、サポーター製造販売など
- 本社住所=大和高田市大谷61番地
- 電話番号=0745(52)0088
- ファクス=0745(22)5929



<https://www.nishikutu.co.jp/>